

詩編と賛歌と靈的な歌によって

エフェソ 5 : 15 - 20



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021 年 8 月 15 日
聖靈降臨後第 12 主日

聖光教会にて

今日の特禱でわたしたちはこのように祈りました。

「主よ、どうか絶えることのない憐れみをもって主の教会を守ってください。」

「主の教会を守ってください。」

この祈りが今ほんとうに必要ではないでしょうか。感染症の広がりによって教会はこれまでしてきた活動ができない。集まりにくい。教会は将来どうなるのか、という心配があります。けれどもここでこそ祈りが必要です。今、この率直な祈りが必要です。

「主よ、どうか主の教会を守ってください。」

この祈りに答えて、今日の使徒書でパウロは助言を与えてくれてます。助言というより、もっと強い「指示」といったほうがいいかもしれません。

「愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい。」エフェソ 5:15-17

「時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。」 5:16

今は悪い時代、また辛い時代です。このような時期こそ、時をよく用いなさい、時間を活用しなさい、というのです。

「今は悪い時代」

新約聖書が書かれた時代も、悪い時代でした。そして今も、悪い時代です。日本の国は歴史の反省を忘れて、戦争する国へと傾いていく。人の心は荒れています。命を尊ぶ、心を大切に、ということが失われていく。人を責め、自分を責めて、傷つけ傷つく。わたしたちもこういう時代にあって悪い影響を受けています。

そのような時代であるからこそ、逆にわたしたちは、それ以上に良いものに触れて、良い影響を受けて、良いものを人と共有して、それを広げて行きたいと願います。

「主の御心が何であるかを悟りなさい。」 5:17

主の御心——神さまはご自分の願いを持っておられます。それを、わたしたちをとおして実現しようとされます。何を神さまは願ってわたしたちに呼びかけておられるか。

ひとつ大切な言葉を、先ほど詩編で唱えました。今日の詩編の最後です。

「悪を離れて良い業をなし || 心から平和を追い求めよ」

詩編 34:14

これが主の御心、神さまの願いです。わたしたちも良い業をなしたい。心から平和を追い求めたい。

次いで 19 節を見ましょう。

「**霊に満たされ、詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。**」エフェソ 5:19

「**霊に満たされ**」

神の霊に、聖霊に満たされてほしい。神さまの息をいただいて深く呼吸してほしい。

この手紙の少し前にこう言われていました。

「**神の聖霊を悲しませてはいけません。**」エフェソ 4:30

わたしたちに与えられている聖霊を忘れて、わたしたちが別の霊、別の力によって占領されたり動かされたりすると、わたしたちのうちで聖霊が悲しまれるというのです。

「**詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。**」

ここで三つの歌が挙げられています。

「**詩編と賛歌と霊的な歌によって**」

これを共にし、これを神さまに献げます。神さまとの交流が起こります。

第1は「**詩編**」です。

礼拝で詩編を歌いあるいは唱えるのは旧約聖書の時代からの伝統で、これをキリスト教会は受け継ぎました。またわたしたちの聖公会も詩編を特に大切にして、祈祷書の中には詩編が全

部収められています。

先ほどは今日の詩編の最後を確かめました。

「悪を離れて良い業をなし || 心から平和を追い求めよ」

詩編 34:14

わたし自身のことですが、このところ心身が少々不安定なこともあって詩編をよく開きます。

「あなたの道を主に任せよ。」 37:5

詩編の短い言葉が、わたしたちを助けてくれます。

第2は「賛歌」です。神を賛美する歌。先ほどの「大栄光の歌」も、後から歌う（唱える）「聖なるかな」も「神の小羊」も賛歌です。また聖歌もすべて賛歌です。

歌うときあるいは唱えるとき、言葉の意味を感じて、それを声に載せたい。それが神に向かいます。神さまはそれを喜んで耳を傾けて聞いてくださいます。

第3は「霊的な歌」。これが具体的に何であるかははっきりしません。でも今はこう理解してみましよう。霊的な歌とは、聖霊を呼び求める歌、あるいは聖霊に動かされて歌う歌。祈りつつ歌う歌。歌うとき、聖霊が働いてくださる歌。

「詩編と賛歌と霊的な歌」。それが実際に歌われている場面の

一つを、聖書の中に見つめてみます。

使徒言行録です。フィリピの町で捕らえられて投獄されたパウロとシラスが、深夜に牢獄の中で祈りつつ賛美の歌を歌っています。

「真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っている」と、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。」

16:25

真夜中の静けさの中で、賛美の歌が響いています。神にまっすぐに向かう祈りの歌です。これは神に届くと同時に、周囲の人々にも影響を与えます。

「突然、大地震が起こり、牢の土台が揺れ動いた。たちまち牢の戸がみな開き、すべての囚人の鎖も外れてしまった。」

16:26

このとき、責任を感じて看守が自殺しようとしてしました。それをパウロは押しとどめました。やがてその看守と彼の家族は、パウロから洗礼を受けて共に喜びました。

「どうか主よ、主の教会を守ってください。」

これに対するパウロの助言、今日の聖書のわたしたちへの促しは、こうでした。

「時をよく用いなさい。」

「主の御心が何であるかを悟りなさい。」

「詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。」

祈ります。

神さま、どうかこの悪い時代に、わたしたちを守り、主の教会を守ってください。わたしたちの思いをまっすぐに主に向けさせて、み心を行うようにしてください。詩編と賛歌と霊の歌がわたしたちの心にあるようにしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン